

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識 I - A		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識 I - A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	2	30
使用教材	美容技術理論1教科書（自作資料） 美容カウンセリング（自作資料）		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	○美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。 ○美容カウンセリングにおいての正しい知識を身につける。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田 順子	実務経験	○		
実務内容	美容師【7年】、専門学校教員として【20年以上】勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション <序章 美容技術理論を学ぶにあたって>	※ 美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明 ・美容理論について・美容技術者としての心構え・安定した姿勢、作業点と姿勢 ・作業点と姿勢 ・力の配分と姿勢 ・人体各部の名称 ・美容における頭部の区分
2	<第1章 美容用具> 1. 美容技術における用具 2. コーム 3. ブラシ	・美容の道具、器具、機械、取り扱い方 ・コームの種類と各部の名称、選定法、手入れ法・ブラシの種類、選定法と手入れ法

3	<p><第1章 美容用具></p> <p>4. シザーズ</p> <p>5. レザー</p> <p>6. ピン類、ヘアクリップ</p> <p>7. ロッド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シザーズの種類、各部の名称、選定法と手入れ法 ・レザーの種類と各部の名称、刃線の形態と力のかかり方、選定法と手入れ法 ・ヘアピンのいろいろ
4	<p><第1章 美容用具></p> <p>8. ローラー</p> <p>9. ヘアアイロン</p> <p>10. ヘアドライヤー</p> <p>11. ヘアスチーマー</p> <p>12. 遠赤外線機</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッドの種類 いろいろな太さのローラー ・ホットカーラー（ローラー）・ヘアアイロンの種類、各部の名称、選定法と手入れ法 ・ヘアドライヤーの種類と構造 ・タービネートタイプドライヤーの構造 ・ヘアスチーマーの選定法・遠赤外線機の役割
5	<p><第2章 シャンプーイング></p> <p>1. シャンプーイング総論</p> <p>2. サイドシャンプー</p> <p>3. バックシャンプー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンプーイングの目的、施術の内容による目的の違い、メカニズム ・シャンプー剤の成分、種類・シャンプーイングの際の注意・シャンプー技術のプロセス ・ブラッシング・ファースト、セカンドシャンプー・バックシャンプーの手順、指の動き
6	<p><第2章 シャンプーイング></p> <p>4. リンス、コンディショナー・トリートメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リンス、コンディショナー、トリートメントの役割、違い、成分 ・リンスの目的、種類、技術・コンディショナーの目的 ・ヘアトリートメントの目的、種類技術の一例
7	<p><第2章 シャンプーイング></p> <p>5. スカルプトリートメント</p> <p>6. ヘッドスパ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スカルプトリートメントの目的、要素、種類・頭皮のトラブルのいろいろ ・育毛剤の成分とはたらき・ノーマルスカルプトリートメント技術の一例 ・スカルプマッサージ技術の目的と手順 ・ヘッドスパのプロセス、リラクゼーションマッサージ
8	<p><第3章 ヘアデザイン></p> <p>1. 美容とデザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・錯覚現象を美容に生かそう・デザインの要素
9	<p><第3章 ヘアデザイン></p> <p>1. 美容とデザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの原理
10	<p><第4章 ヘアカットイング></p> <p>1. ヘアカットイングとは</p> <p>2. シザーズとレザーの扱い方</p> <p>3. 美容刃物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シザーズ、レザーの持ち方等・刃物の材質、材料
11	<p><第4章 ヘアカットイング></p> <p>4. ヘアカットイングの正しい姿勢</p> <p>5. ブロッキング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢の基本 ・頭部の基礎分割線・基準となる頭部のポイント
12	<p><第4章 ヘアカットイング></p> <p>6. ヘアカットイングの基礎理論</p> <p>7. ベーシックなカット技法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライスの種類・パネルと頭皮の角度・毛先が集まる位置とカットラインの関係 ・パネルの幅や長さでカットラインの関係・パネルの角度とシルエットの関係・ラインの設定法 ・ワンレングスカット・グラデーションカット・レイヤーカット・セიმレングスカット

13	<p><第5章 パーマネントウェーピング></p> <p>1. パーマネントウェーブの歴史と現在</p> <p>2. パーマネントウェーブの理論</p> <p>3. パーマ剤の分類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パーマネントウェーブをはじめとする美容関係の歴史・毛髪の構造について ・ウェーブが形成される仕組み・パーマ剤の分類、種類
14	<p><第5章 パーマネントウェーピング></p> <p>4. パーマ剤に関する注意事項</p> <p>5. パーマネントウェーブ技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用前、操作中に関する注意事項 ～ スタイリング
15	<p><第5章 パーマネントウェーピング></p> <p>6. ワインディングのバリエーション</p> <p>7. 縮毛矯正(高温整髪用アイロン使用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワインディングにおける応用I～カウンセリング（プレーン&仕上げ）
16	<p><第6章 ヘアセッティング></p> <p>1. ヘアカットとは</p> <p>2. ヘアパーティング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルセットの基本的な要 ～ スtrandシェープ、フィンガーウェーブ時の持ち方
17	<p><第6章 ヘアセッティング></p> <p>3. ヘアシェーピング</p> <p>4. ヘアカーリング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルセットの基本的な要 ～ スtrandシェープ、フィンガーウェーブ時の持ち方 ・カール各部の名称、分類 ～ クロッキノールカール技術の一例
18	<p><第6章 ヘアセッティング></p> <p>5. ヘアウエーピング</p> <p>6. ローラーカーリング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアウエーブの名称、分類 ～ ローラーウェーブ
19	<p><第6章 ヘアセッティング></p> <p>7. ブロードドライ</p> <p>8. アイロンセッティング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドドライヤーとブラシの基本操作・アイロンの持ち方
20	<p><第6章 ヘアセッティング></p> <p>9. バックコーミング</p> <p>10. アップスタイル</p> <p>11. ウィッグとヘアピース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィッグ、ヘアピース手入れ法
21	<p><第7章 ヘアカラーリング></p> <p>1. ヘアカラーリング概要</p> <p>2. ヘアカラーの種類</p> <p>3. ヘアカラーのタイプ別特徴</p> <p>4. 染毛のメカニズム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアカラーリングの歴史、種類 ～ タイプ別染毛メカニズム

22	<第7章 ヘアカラーリング> 4. 染毛のメカニズム 5. 色の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアカラーの色選び
23	<第7章 ヘアカラーリング> 6. 毛髪のレベルとアンダートーン 7. パッチテスト	～アンダートーン <ul style="list-style-type: none"> ・染毛剤と皮膚炎 ～ ・ヘアカラーリング専用の施術道具 ・パッチテスト
24	8. 染毛剤使用時の注意 9. ヘアカラーリングの道具	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアカラーリング専用の施術道具
25	<第7章 ヘアカラーリング> 10. 酸化染毛剤の技術手順 11. 酸性染毛剤料の技術手順	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーの主義
26	第1章 カウンセリング概論 1 カウンセリングとは 2 カウンセリングの手法	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングとは ・カウンセリング内容をクライアントの欲求で分ける ・コンサルティングとは ・コーチングとは ・心理カウンセリングとは
27	第1章 カウンセリング概論 3 カウンセリングに必要な基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の保護 ・心の仕組みと動き ・コミュニケーションとストレスの関係 ・カウンセリングのプロセス ・3つの相談方法
28	第1章 カウンセリング概論 4 カウンセリングの訓練 5 職場の精神衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイングによる傾聴訓練 ・エンカウンターグループ ・スキルアップ訓練 ・職場で起こるトラブル対応の訓練 ・4つのメンタルヘルスケア ・ストレス管理 ・ストレッサーとストレス反応 ・カウンセリングは重要な職場のシステム

29	<p>第2章 毛髪・皮膚コンサルティング</p> <p>1 サロンでのコンサルティングの意義</p> <p>2 毛髪診断</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンでのコンサルティングの必要性 ・コンサルティングを正しく行うために ・コンサルティングを行う際の態度 ・サロンの繁栄のためのコンサルティング ・機器診断と触診 ・毛質（髪質）について
30	<p>第2章 毛髪・皮膚コンサルティング</p> <p>3 パーマ施術前のコンサルティング</p> <p>4 ヘアカラー施術前のコンサルティング</p> <p>5 その他の施術前のコンサルティング</p> <p>6 コンサルティングのその他の知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・希望の確認 ・断毛と脱毛 ・頭皮の確認 ・薬液の選定と施術料の提示 ・ヘアカラー製品の選定 ・酸化染毛剤（ヘアカラー）のパッチテスト ・パッチテストで異常を生じた際の対応と染毛料の使用 ・染め上がりの色と退色 ・染毛剤（医薬部外品）の使用上の注意について ・化粧品、医薬部外品についての正しい知識 ・毛髪の傷みの原因について ・化粧品の使用上の注意と使用方法 ・ヘナ（ヘナ）製品 ・ヘアスタイリング剤 ・ヘアカット ・シャンプー ・ヘアトリートメント ・施術後のヘアデザイン

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識 I - B		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識 I - B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	文化論教科書（自作資料） ヘアスタイル画によるトータルファッション （自作資料）		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「文化論」の正しい知識を身につける。 ヘアスタイル画によるトータルファッションにおいての正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。 全身のプロポーションとともにコスチュームや小物の描き方を学び、トータルファッションの提案が出来るようになる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	春藤 聡子	実務経験	○		
実務内容	当校で、美容文化論/デッサンイラストレーションを【10年以上】担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 総論 第2章 日本の理容業・美容業の歴史	1 総論 P5~8 1 理容業・美容業の発生 2 江戸時代の理容業・美容業 3 近代の理容業・美容業 4 現代の理容業・美容業 P9~24
2	第3章 ファッション文化史 日本編	1 縄文・弥生・古墳時代 2 古代（飛鳥・奈良・平安時代） P34~48
3	同上	3 中世（平安末・室町・鎌倉・戦国時代） 4 近世Ⅰ（戦国末・安土桃山時代） P49~58
4	同上	5 近世Ⅱ（江戸時代） P59~73

5	同上	6 近代（明治・大正・昭和 20 年まで） P74~88
6	同上	7 現代（1945 年～1950 年代） 8 現代（1960 年代～1970 年代） P89~94
7	同上	9 現代（1980 年代～1990 年代 10 現代（2000 年代以降） P95~111
8	第 4 章 ファッション文化史 西洋編	1 古代エジプト 2 古代ギリシャ・ローマ 3 古代ゲルマン 4 中世ヨーロッパ 5 近世（16 世紀） 6 近世（17 世紀） 7 近世（18 世紀） P119~140
9	同上	8 近代（18 世紀末～19 世紀初め） 9 近代（19 世紀） 10 現代（1910 年代～1920 年代） 11 現代（1930 年代～1940 年代前半） 12 現代（1940 年代後半～1950 年代） P141~162
10	第 5 章 礼装の種類	13 現代Ⅳ（1960 年代） 14 現代Ⅴ（1970 年代） 15 現代Ⅵ（1980 年代） 16 現代Ⅶ（1990 年代～2010 年） 1 和装の礼装 2 洋装の礼装 P163~188
11	ベーシックドローイング	1 鉛筆の削り方について 2 顔のプロポーシオンについて 3 顔の部分練習について 4 顔の描き方
12	ベーシックドローイング	5 角度の変化による髪型について 6 ヘアの描き方について
13	ベーシックドローイング	7 いろいろな描き方を学ぶ 8 顔の部分練習応用編について 9 配色によるイメージの違いを学ぶ 10 ヘアスタイルによるイメージの違いを学ぶ 11 同じ顔でイメージを変えることを学ぶ
14	実践ドローイング	1 基礎プロポーシオンについて 2 プロポーシオンの理解について
15	デザイン画	1 ファッションイラストの描き方を学ぶ 2 ファッショングッズの描き方を学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識 I -D		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識 I -D		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	衛生管理1（自作資料）		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れ 筆記試験の問題形式・問題数・問題傾向の説明 「公衆衛生の意義と課題」「公衆衛生発展の歴史」「理容師・美容師と公衆衛生」 「保健所と理容業・美容業」
2	1編 公衆衛生 2章 保健①	「母子保健」「成人・高齢者保健」①
3	1編 公衆衛生 2章 保健②	「成人・高齢者保健」②
4	1編 公衆衛生 2章 保健③	「成人・高齢者保健」③

5	1編 公衆衛生 2章 保健④	「成人・高齢者保健」④ 「精神保健」
6	1編のまとめ	1編「公衆衛生」の振り返り
7	2編 環境衛生 1章 環境衛生①	「環境衛生の概要」「空気環境」
8	2編 環境衛生 1章 環境衛生②	「衣服・住居の衛生」
9	2編 環境衛生 1章 環境衛生③	「上下水道と廃棄物」
10	2編 環境衛生 1章 環境衛生④	「衛生害虫とネズミ」「環境保全」
11	2編のまとめ	2編「環境衛生」の振り返り
12	3編 感染症 1章 感染症の総論①	「人と感染症」
13	3編 感染症 1章 感染症の総論②	「病原微生物」「感染症の予防」
14	3編 感染症 1章 感染症の総論まとめ	3編1章「感染症総論」の振り返り
15	総まとめ	これまでの振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識 I - E		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識 I - E		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	化粧品化学 I（自作資料）		出版社	公益社団法人 日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容分野において多様される「化粧品」について、原料や配合など化学的側面からその成り立ちを理解し、特性を知った上で安全な取扱いができるようにする。パーマやカラーなどの美容技術の仕組みを化学事象として捉える観点を養う。				
到達目標	化学の基礎知識を習得し、化粧品を適切に扱うために応用できる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	衛生管理、美容保健、美容技術理論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1編 化粧品総論 第1章：化粧品総論	初回オリエンテーション 化粧品とは、化粧品と造形、化粧品の効果と使用プロセス
2	第2章：化粧品を使用する際に気をつけるべきこと	化粧品の使用による症状、化粧品の定義と法規制、化粧品の安全性と安定性
3	第3章：化粧品の成り立ち 「化粧品の成り立ち」 「水と親水性溶媒」	化粧品の成り立ち、水と親水性溶媒（溶質と溶媒、有機・無機化合物、アルコールの種類と特徴のまとめ）
4	第3章：化粧品の成り立ち 「油性原料」	油性原料の種類（油脂、ロウ類、炭化水素、その他油性原料）、油性原料の機能
5	第3章：化粧品の成り立ち 「界面活性剤」	界面活性剤の基本構造と作用、種類（陰イオン・陽イオン・両性・非イオン）、化粧品への応用

6	第1編まとめ①・小テスト[1]	1～5回までの総復習および小テスト
7	第3章：香粧品の成り立ち 「高分子化合物」「香料」	高分子化合物（天然・半合成・合成）と香粧品への応用、香料の種類
8	第3章：香粧品の成り立ち 「色材」	発色の原理、色材の種類（無機顔料・タール色素・光輝性顔料・天然色素）
9	第3章：香粧品の成り立ち 「製品を安定させる配合原料」	配合原料の種類（防腐剤・殺菌剤・酸化防止剤・金属イオン封鎖剤）
10	第3章：香粧品の成り立ち 「その他の機能性配合原料」	配合原料の種類（保湿剤・紫外線吸収剤・収れん剤・その他）
11	第3章：香粧品の成り立ち 「雑貨原料」 第1編まとめ②・小テスト[2]	合成樹脂（重合と高分子）、接着剤、塗料、 7～10回までの総復習および小テスト
12	第1編まとめ総合およびテスト	第1編香粧品総論の総復習およびテスト
13	第2編 香粧品各論 第1章：スキンケア製品①	香粧品の効果と使用プロセス、クレンジング用香粧品（化粧水・オイル・石けん等）
14	第1章：スキンケア製品②	コンディショニング用香粧品（化粧水・クリーム・乳液）
15	第1章：スキンケア製品③	トリートメント用香粧品（機能性化粧水・美容液）、サンケア製品

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識 I -F		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識 I -F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	保健1（自作資料）		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「保健」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	1項 人体各部の名称
2	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	2項 頭部、顔部、頸部の体表解剖学
3	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	まとめ:単元テストと4択問題
4	第2章/骨格器系	1項 骨の種類と構造 2項 骨の連結
5	第2章/骨格器系	3項 骨格器系とそのはたらき

6	第2章/骨格器系	まとめ:単元テストと4択問題
7	第3章/筋系	1項 筋の種類とその特徴 2項 主な骨格筋とそのはたらき
8	第3章/筋系	3項 表情筋と表情運動
9	第3章/筋系	まとめ:単元テストと4択問題
10	第4章/神経系	1項 神経系の成り立ち
11	第4章/神経系	2項 中枢神経とそのはたらき 3項 末梢神経とそのはたらき
12	第4章/神経系	まとめ:単元テストと4択問題
13	第5章/感覚器系	1~3項 視覚・聴覚・平衡感覚
14	第5章/感覚器系	4~6項 味覚・嗅覚・皮膚感覚
15	第5章/感覚器系	まとめ:単元テストと4択問題

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業界で働くことに興味を持たせる 美容業界を知り、自ら企業を研究させる				
到達目標	美容業界の特徴を知る 職種を知る 企業・サロンを知る 就職活動に向け自分自身をPRする				
評価基準	定期試験20%、提出物50% 授業態度等30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上のもの				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山 智久	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職対策について	就職対策について/成績のつけ方/テスト日程伝達
2	社会人と学生の違い	就職とは/学生と社会人の違いについて考える※グループワーク
3	サロンについて知る	美容業界の職種について知る※グループワーク
4	サロンについて知る	美容業界の魅力を知る※動画ほか
5	自己分析	自己分析 導入～高校時代・アルバイト

6	自己分析	自己分析シート記入
7	自己分析	自己分析シート記入
8	テスト	筆記テスト
9	サロン調べ	サロン調べの方法・興味のあるサロンを知る
10	サロン調べ	実習に行きたいサロンを調べる
11	自己PR作成	自己PRの起こし方・作成
12	自己PR作成	自己PR作成
13	自己PR作成	自己PR仕上げ
14	就職後イメージ	卒業生仕事動画紹介
15	総合授業	後期への意識付け

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業界で働くことに興味を持たせる 美容業界を知り、自ら企業を研究させる				
到達目標	美容業界の特徴を知る 職種を知る 企業・サロンを知る 就職活動に向け自分自身をPRする				
評価基準	定期試験20%、提出物50% 授業態度等30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上のもの				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	後期就職対策について	後期就職対策について/成績のつけ方/テスト日程伝達/学外実習について
2	企業訪問について	心構え
3	企業訪問について	訪問先での言葉遣い
4	企業訪問について	訪問先での立ち居振る舞い
5	就職に向けて	履歴書落とし込み

6	就職に向けて	履歴書作成
7	就職に向けて	履歴書作成
8	テスト	筆記テスト
9	求人について	求人票の見方
10	求人について	保険や制度
11	ビジネス文書	お礼状・添え状
12	面接時の立ち居振る舞い	面接演習
13	行事	就職決起会など
14	行事	就職決起会など
15	行事	就職フェア

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアデザイン I		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアデザイン I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	NESTA Essential Life Skills		出版社	NESTA JAPAN	

科目の基礎情報②

授業のねらい	自己成長と社会適応力を高め、充実した社会人へ向けての準備をする。				
到達目標	自己の人生をコントロールする方法を理解することができる。 健全な人間関係構築のための考え方を身につけることができる。 お金の稼ぎ方、使い方を理解することができる。				
評価基準	授業態度：30% レポート・課題など（提出物）：70%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	就職対策 I・II / キャリアデザイン II				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山 智久	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 「大人になる」ために	キャリアデザイン・NESTA 授業について
2	自分の人生をコントロールするには 何を望み、それをどう得るか？	「大人として人生を見る」とは…、自己管理、関係構築、社会的責任の理解と実践を知る。 日常の小さな選択から人生の大きな決断まで、自分の望みを見極め、それを実現する方法を学ぶ。
3	変化する世界をどう生きるか？ 人間と社会性 友情の役割とその育て方	変化する世界に適応し、テクノロジーと倫理的な使い方を学ぶ 友情の大切さ、質の高い友人関係の築き方と維持方法、及び人間関係の影響力について学ぶ
4	家族の中の自分 恋愛における人間関係	家族内での役割と責任の重要性、家族の絆、お互いを支え成長する方法を学び 恋愛における自己理解と相手との健康的な関係構築方法を学ぶ

5	効果的なコミュニケーションスキル	効果的なコミュニケーションスキルの基礎と、会話の始め方、対立の解決方法を学ぶ
6	キャリアの形成と職業選択 仕事で成功する方法	自分の興味・適性に合った仕事を見つけ、キャリア形成の方法と履歴書、エントリーシート等の就職の手順を学ぶ 新しいスキル習得やプロフェッショナルな印象を与える服装選び、インポスター症候群の克服方法を学び、職場で成功する基盤を築く
7	「給料」について考える	お金の大切さと賢い使い方を学び、給与計算、税金、貯蓄、投資の基礎知識を学ぶ。
8	住まいと車の選び方 生活の中での予期せぬ事態への備え	一人暮らしの準備と管理、自宅の役割、適切な住まいの選び方、賃貸と購入の比較、引越しの計画、生活空間のデザイン、安全な住環境の確保、適切な交通手段の選択方法を学ぶ。 予期せぬ事態に備える重要性、家のメンテナンス、電気・水害対策、他者からの助けの求め方を学ぶ
9	楽しく健康的に食べる・栄養の基本 メンタルヘルス 責任ある「市民＝社会の一員」であるための方法・失敗から学ぶ未来への教訓	栄養の基本、健康維持方法、健康的な食事習慣形成、健康的に食べる方法を学ぶ メンタルヘルスの基礎、困難への対処法、薬物乱用問題を学ぶ 社会人の責任、倫理的行動、社会への積極的な貢献、情報収集の重要性、意思決定を行う自分の役割を学ぶ
10	HR 内容	各校フリー ・教務や就職イベント ・教務講話
11	HR 内容	同上
12	HR 内容	同上
13	HR 内容	同上
14	後期へ向けて	後期へ向けての目標設定を行う
15	前期まとめ	クラス全体へ向けて、前期の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアデザインⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアデザインⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	自己成長と社会適応力を高め、充実した社会人へ向けての準備をする。				
到達目標	自己の人生をコントロールする方法を理解することができる。 健全な人間関係構築のための考え方を身につけることができる。				
評価基準	授業態度：30% レポート・課題など（提出物）：70%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	就職対策Ⅰ・Ⅱ / キャリアデザインⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期振り返り 後期オリエンテーション	前期の振り返り 後期実施内容について
2	HR 内容	各校フリー ・教務や就職イベント ・教務講話 ・HR などの実施
3	HR 内容	同上

4	HR 内容	同上
5	HR 内容	同上
6	HR 内容	同上
7	HR 内容	同上
8	HR 内容	同上
9	HR 内容	同上
10	HR 内容	同上
11	HR 内容	同上
12	HR 内容	同上
13	HR 内容	同上
14	2年次へ向けて	2年へ向けての目標設定を行う
15	1年間のまとめ	学び方など、1年次の学校生活を振り返る

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	メイクアップ演習 I		
必修選択	選択	(学則表記)	メイクアップ演習 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	2	45
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。				
到達目標	スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック(後期)				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	三谷 綾佳	実務経験	○		
実務内容	ヘアメイクアップアーティスト				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
2	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
3	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)
4	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト 10 分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗り)
5	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り

6	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)
7	セルフメイク	セルフメイク
8	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
9	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
10	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ&ローライト)
11	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
12	フルメイク	フルメイクテスト 35分×2、ベーシックテクニックの振り返り
13	ソフト	フルメイク(ソフト)
14	シャープ	フルメイク(シャープ)
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	メイクアップ演習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	メイクアップ演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	2	45
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。				
到達目標	スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック(後期)				
関連科目	メイクアップ演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)

6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
7	ブレ検定	スキンケア 10分・フルメイク 35分行う テスト扱いとする
8	苦手克服	フルメイク(苦手な場所を意識的に行う) 座学(検定筆記対策を行う) アドヴァンス検定（任意受験）対策
9	プロポーション	プロポーションについて導入、実践 アドヴァンス検定（任意受験）対策
10	錯覚	錯覚について導入、実践 アドヴァンス検定（任意受験）対策
11	色、質感	色、質感について導入、実践 アドヴァンス検定（任意受験）対策
12	色、質感	色、質感について導入、実践 アドヴァンス検定（任意受験）対策
13	フルメイク	フルメイクまとめテスト アドヴァンス検定（任意受験）対策
14	フルメイク	フルメイクまとめテスト／振り返り アドヴァンス検定（任意受験）対策
15	総合授業	まとめを行う アドヴァンス検定（任意受験）対策

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	サービス接遇 I		
必修選択	選択	(学則表記)	サービス接遇 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	30
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト 3級 サービス接遇検定実問題集 3級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける				
到達目標	サービス接遇検定 3級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。				
評価基準	【評価】 テスト 50%、課題・提出物 20% 授業態度等 30%				
認定条件	・ 出席が総時間数の 3分の2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	サービス接遇検定 3級				
関連科目	就職対策				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	菅田 美穂	実務経験	○		
実務内容	医療機関にて局長秘書として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ビジネスマナーとは	授業の目的・到達目標について ビジネスマナーを学ぶ意味を知る
2	サービススタッフの資質	サービス業界で求められているものについて
3	サービススタッフの資質	必要とされる要件の復習・従業要件について
4	専門知識・一般知識	サービス知識、従業知識、一般知識について
5	対人技能（敬語）①	様々な接遇用語・敬語について

6	対人技能（敬語）②	尊敬語・謙讓語・二重敬語について
7	対人技能（一般的なマナー）	動作を行う際の基本・ポイントについて
8	対人技能①	人間関係について
9	対人技能②	一般的なマナー・接客者としてのマナーについて
10	対人技能③	話し方について
11	実務技能①	問題処理について
12	実務技能②	環境整備・金品管理について
13	社交業務	社交儀礼の業務について
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	サービス接遇Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	サービス接遇Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）		30
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト3級 サービス接遇検定実問題集3級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける				
到達目標	サービス接遇検定3級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。				
評価基準	テスト30%、検定試験30%、課題・提出物20%、授業態度20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	サービス接遇検定3級				
関連科目	就職対策				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定対策授業	復習と練習問題
2	検定対策授業	復習と練習問題
3	検定対策授業	復習と練習問題
4	検定対策授業	復習と練習問題
5	検定対策授業	復習と練習問題

6	検定対策授業	復習・検定問題の解答・解説
7	履歴書作成①	履歴書とは、履歴書のマナー、履歴書の書き方について
8	履歴書作成②	履歴書作成
9	社交文書 ①	縦書き・横書きレイアウトについて 文書の種類・文書の構成・頭語と結語・時候の挨拶・前文、末文の慣用句
10	社交文書 ②	郵便の基礎知識～宛名の書き方、返信はがき、お礼状、送付状について
11	理想の美容従事者像	お客様から愛され・親しまれる美容従事者について
12	実技演習①「受付～誘導」	受付から誘導のロールプレイング演習
13	実技演習②「面接練習」 実技演習③「電話対応」 実技演習④「お茶出し」	面接試験の種類とチェックポイントについて 面接ロールプレイング
14	同上	電話のかけ方・受け方、伝言メモ、予約電話のシミュレーション
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラー&ファッションⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラー&ファッションⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業態度等 20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大越 まさみ	実務経験	○		
実務内容	カラーリストとしてフリーで活動				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	パーソナルカラーとは、色の連想	授業の目的・到達目標について パーソナルカラーを学ぶ意味を知る
2	色の心理的効果	色の持つイメージと性質、色の心理的効果について
3	色と光について①	色に見える仕組み、光について
4	色と光について②	眼（視覚）のしくみについて
5	色の特徴について①	無彩色と有彩色、三属性について、色相環の作成

6	色の特徴について②	三属性について、色相環・トーン図の作成
7	色の特徴について③	トーンについて
8	配色（色相、トーン）	配色、色相、トーンについて
9	配色（配色の応用、イメージ配色他）	配色の応用編について 条件にあった配色をつくる
10	対比と同化	対比と同化について
11	混色・慣用色名	混色の原理・慣用色名について
12	パーソナルカラーの基礎①	パーソナルカラーの基礎について
13	パーソナルカラーの基礎② 復習	各シーズンの特徴について、復習
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラー&ファッションⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラー&ファッションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）		15
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。				
評価基準	テスト 30%、検定試験 30%、提出物 20%、授業態度 20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アドバイス実践 (ファッション)	ファッションについて
2	アドバイス実践 (ヘアカラー・メイク)	ヘアカラー、メイクについて
3	アドバイス実践 (ネイル・ブライダル)	ネイル、ブライダルについて
4	総復習	検定試験に向けての総復習
5	総復習	復習と練習問題

6	検定対策授業	復習と練習問題
7	検定対策授業	復習と練習問題
8	検定対策授業	復習と練習問題
9	検定対策授業	復習と練習問題
10	検定対策授業	復習と練習問題
11	パーソナルカラーの判定①	パーソナルカラーの判定に必要な知識について
12	パーソナルカラーの判定②	パーソナルカラーの判定に必要な知識・実践について
13	4つのグループの具体化①	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
14	4つのグループの具体化②	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック（WEB アプリ）		出版社	FCE エデュケーション	

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分をも身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。 				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	西村 恭平	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	夢のスケッチブックアプリの使い方を学ぶ SANKO ワークコンピテンスの理解を深める
2	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
3	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
4	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
5	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ

6	言霊 ～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
7	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
8	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
9	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック（WEBアプリ）		出版社	FCE エデュケーション	

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分をも身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。 				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	Win-Win を考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
3	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
4	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを知る
5	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ

6	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
7	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
8	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
9	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
10	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
11	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
12	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
13	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
14	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
15	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ヘアケアソムリエⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアケアソムリエⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）	1	15
使用教材	シャンプー教材 美容技術理論Ⅰ		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	正しいヘアケア知識を持ち、お客様の髪と頭皮のお悩みに対応できるようになる					
到達目標	シャンプー、ブロー、カラー、ヘアケア剤の成分・効果を深く理解する 一人ひとりの髪質・頭皮状態に合わせたカウンセリングや接客知識を身につける					
評価基準	総まとめ50% まとめ30% 提出物20%					
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 					
関連資格						
関連科目	美容技術理論Ⅰ					
備考	オンデマンド					
担当教員				実務経験		
実務内容						

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	同上	【オンデマンド】 オージュアソムリエ（ミルボン認定） 発行団体：株式会社ミルボン
2	同上	同上
3	同上	同上
4	同上	同上
5	同上	同上

6	同上	同上
7	同上	同上
8	同上	同上
9	同上	同上
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	同上	同上

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スキンケア I		
必修選択	選択	(学則表記)	スキンケア I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）		15
使用教材	日本化粧品検定 2 級対策テキスト『コスメの教科書』		出版社	主婦の友社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケア・スキンケア対処方法についてを習得する					
到達目標	スキンケアの基礎知識を深め、化粧品の成分や働きを正しく理解する					
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%					
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者					
関連資格	日本化粧品検定 2 級・準 2 級・3 級(任意受験)					
関連科目	基礎知識 I - A(美容技術理論)、基礎知識 I - B(文化論)、基礎知識 I - E(化粧品化学)、基礎知識 I - F(美容保健)					
備考						
担当教員				実務経験		
実務内容						

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 化粧品検定について	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 日本化粧品検定についての詳細説明
2	化粧品検定 3 級対策① 間違いがちなスキンケア	間違いがちなクレンジング～スキンケアの素朴な疑問 まで
3	化粧品検定 3 級対策② 間違いがちな UV ケア・メイクアップ	間違いがちな UV ケア～間違いがちなポイントメイクアップ まで
4	化粧品検定 3 級対策③ 間違いがちなボディケア・ヘアネイルデンタルケア	間違いがちなボディケア～間違いがちなデンタルケア まで
5	中間テスト	まとめを実施する

6	解説	テストの振り返り・解説
7	化粧品検定準2級対策① スキンケアの基本①	クレンジング・洗顔の基本
8	化粧品検定準2級対策② スキンケアの基本②	化粧水、乳液・クリームの基本 スペシャルケアの基本
9	化粧品検定準2級対策③ UVケアの基本	UVケアの基本
10	化粧品検定準2級対策④ メイクアップの基本①	ベースメイクアップの基本
11	化粧品検定準2級対策⑤ メイクアップの基本②	ポイントメイクアップの基本
12	化粧品検定準2級対策⑥ ボディケア、ハンドケアの基本	ボディケアの基本 ハンドケアの基本
13	化粧品検定準2級対策⑦ ヘアケアの基本、ネイルケアの基 本	ヘアケアの基本 ネイルケアの基本
14	期末テスト	まとめを実施する
15	解説・総合授業	テスト内容の解説を行う まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スキンケアII		
必修選択	選択	(学則表記)	スキンケアII		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科（3年制）		15
使用教材	日本化粧品検定2級対策テキスト『コスメの教科書』		出版社	主婦の友社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケア・スキンケア対処方法についてを習得する					
到達目標	スキンケアの基礎知識を深め、化粧品の成分や働きを正しく理解する					
評価基準	テスト50%、提出物30% 授業意欲20%					
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者					
関連資格	日本化粧品検定2級・準2級・3級(任意受験)					
関連科目	基礎知識I-A(美容技術理論)、基礎知識I-B(文化論)、基礎知識I-E(化粧品化学)、基礎知識I-F(美容保健)					
備考						
担当教員				実務経験		
実務内容						

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 化粧品検定2級について	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 日本化粧品検定についての詳細説明
2	化粧品検定2級対策① 皮膚と構造の仕組み①	Part1. 皮膚の構造 皮膚表面の構造～皮膚がもつバリア機能
3	化粧品検定2級対策② 皮膚と構造の仕組み②	Part1. 皮膚の構造 真皮の構造としくみ～ part2. 皮膚の作用
4	化粧品検定2級対策③ 肌タイプの見分け方とお手入れ	Part2. 肌タイプの見分け方とお手入れ方法 肌タイプと見分け方
5	化粧品検定2級対策④ 肌悩みの原因とお手入れ①	Part3. 肌悩みの原因とお手入れ 1. 乾燥 ～ 4. 毛穴
6	化粧品検定2級対策⑤ 肌悩みの原因とお手入れ②	Part3. 肌悩みの原因とお手入れ 5. シミ ～ 8. シワ・たるみ

7	中間テスト	まとめを実施する
8	解説	テストの振り返り・解説
9	化粧品検定2級対策⑦ 骨格に合わせたメイクアップ	Part4. 骨格に合わせたメイクアップ
10	化粧品検定2級対策⑧ 肌を劣化させる要因①	Part5. 肌を劣化させる要因 1. 外的要因 3. 外的要因+内的要因
11	化粧品検定2級対策⑨ 肌を劣化させる要因②	Part5. 肌を劣化させる要因 2. 内的要因
12	化粧品検定2級対策⑩ 生活習慣美容	Part6. 生活習慣美容
13	化粧品検定2級対策⑪ 筋肉・ツボ・リンパ	Part7. 筋肉・ツボ・リンパ
14	期末テスト	まとめを実施する
15	解説・総合授業	テスト内容の解説を行う まとめを行う